

【熊本県賞】

海の豊かさを守ろう

これは持続可能な開発目標、SDGsの十四番目の目標だ。SDGsという言葉聞いたことのある人は多いと思う。しかし、その内容はあまり知られていない。世界で海洋汚染が叫ばれている今、私たちの熊本の海について考えたい。

夏休み、私は天草の祖父母の家に帰省した際、家族でよく海に行っていた。私は特別海を重要視しているというわけではないが、海は私たち熊本人にとってなくてはならないものだと思っている。しかし、その光景がこれからも続くといい切れるのだろうか。熊本の海の現状、そしてこれから起こりうる未来について調べることにした。

熊本は有明海、八代海、天草灘と三つの海に面している。雄大な自然風景や漁業は勿論、海水によってミネラルを多く含む青果物など海のもたらす恩恵は計り知れない。夏の遊び場であったり、海を見ると心が安らぐという人も多いだろう。地下水や湖、降水量に恵まれ「水の都」と称されるほど水に重きを置く熊本にとってこの海がどれほど必要かは言うまでもない。そんな中、今熊本の海は漂着ごみや放置されたプラスチックが問題になっている。原因としてはやはりポイ捨て、そして災害時、特に大雨の際の流出である。漁業や船舶の運航に支障をきたす上に、熊本の海の長所である多様な生態系においては甚大な被害を被っている。この状態が続けば熊本の海が美しさを失い、今とはかけ離れたものになることは想像に難くない。

この状況を改善するため、熊本県では漂着ごみの実態把握、回収強化、循環型社会の推進など打開策を数多く行っている。しかし、いまだ海洋ゴミは熊本の海を漂っている。現状を打破し海がきれいであり続けるには、県や企業、市町村、そして一人ひとりの協力が必要だ。清掃活動やボランティアだけでなく、「ゴミを出さない」根本的な解決に目を向けるべきだと私は思う。海洋ゴミ、イコールペットボトルなどのプラスチック

熊本県 県立八代中学校 二年 池田 遥

クと思ひ込みやすいが、不織布マスクや使い捨てコンタクトレンズなどその他のゴミも数多く見受けられる。意識調査によると、県民の海洋ゴミに対する意識は高い。だからこそ正しい現状を伝えることで熊本の海はより改善へ向かっていくのだと思う。今必要なのは増え続けるゴミを対処する対症療法ではなく、そもそもゴミを出さない根本治療だと私は考えている。実際、エコバッグの利用やプラスチックストローの利用を控えるなどできることは多い。「海の豊かさを守ろう」、熊本の海を守り、次の世代へ受け継いでいくのは他でもない私たちなのだ。

あなたは釣り糸が首に食い込んでいるウミガメの写真を見たことがあるだろうか。毎年百万羽の海鳥と十万匹の海洋生物が人の出したゴミにより命を落としている。

あなたは最後に海を見たとき、何を思ったか覚えているだろうか。それはこれからも約束されているものだろうか。

まだ手遅れではない。これはもつと簡単な問題であるべきなのだ。この熊本の海をいつまでも眺め続けられるように、これからを当たり前にするために、今できることを私はしていきたい。

これを読んだあなたに、熊本の海を少し考えてほしい。